

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0874300973		
法人名	(有)ケアサービスコスモス倶楽部		
事業所名	グループホーム にれの木桃花寮		
所在地	茨城県古河市仁連 1987-15		
自己評価作成日	2020年10月1日	評価結果市町村受理日	2021年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0874300973-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2020年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者・家族の思いや意向を大切に住民慣れた地域で穏やかに暮らし、施設の一部を開放することで家族や地域の方々との交流を持てる様に支援をします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域防災の中で拠点として位置づけられ、非常用の発電機が設置された。また、地域の避難場所にも指定されている。障がい者や認知症の方は、健康者と同じ行動することが困難であることが多い為、この事業所が担う避難場所としての役割は、地域貢献にもなると考えている。水害の心配がない立地である為、水害時の避難先にも推奨されている。コロナ禍で、家族と面会できないストレスを抱えた利用者には落ち着かない様子も見られるが、愛情を持って接していると理解してくれ、職員を家族のように感じてくれると話されていた。利用者がわがままを言っても、20年後の自分の姿だと思いながら接していると寛容な対応であった。
***新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもと積極的な地域との交流に努めています。	地域密着型を意識した理念を掲げているが、今年世界的な新型コロナウイルス感染拡大という特別な年であり、理念の実践は難しい。しかし、理念を大切に、定期会議では、初心に返るという意味を含め確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議、定例会議を通して地域とのつながり、何を行って行くかなど取り組んでいます。	コロナ禍で全てのイベントや交流が中止となっているため、ホーム内での楽しみを工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での祭りや恒例の社協ボランティアの参加、訪問ボランティア等を感染症対策等で本年は中止になっていますが今後、感染症対策の上検討継続し、又、子供会や地域の方々の集まれる施設として行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催、会議の場で意見交換、話合いサービスの向上に努めています。	現在は感染予防の観点から文書による開催。会議資料にお便りを添えて送付。質疑応答など、返信された資料をまとめて議事録にしている。前回の推進会議での質問意見一緒にまとめる予定。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、ケアマネが行政に行き、意見を伺い、質の向上に努めています。	市役所との関係は良好。感染症対策についても役所と協議してみようと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者、家族に説明や意向に合わせて出来るだけ拘束をしないケアを心がけています。	定例会議で身体拘束について話し合い、拘束をしない、利用者の安全で安心なケアに努めている。全員が共通理解できるよう、勉強会もやっている。	

茨城県 グループホームにれの木桃花寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体・精神的な面も考慮し、拘束の無いケアや観察に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修し、帰宅後や家族来所時にお聞きし、身体・精神的なもの等の観察や報告をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の見学や契約内容の説明を行い、納得した上での契約・捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見お聴取や電話報告、面会時等に随時家族が意見を述べやすくなるよう工夫し意見の聴き取りなどを行っています。	正月の外泊や外出の希望問い合わせが多く、検討中である。今年のクリスマス会は家族参加はなしで、利用者のみで行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場で意見交換をしています。	職員の要望をその都度定例会議の議題にあげ、利用者の状況・対応についても話し合う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に合わせ手当を支給し、又実践者研修修了者には役職者に任命している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主学習の勧めや実践者研修等の受講者が職員の研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	古河市のグループホーム連絡会で施設同士の情報交換、サービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予定者には本人家族に寮の見学や説明などを行い、本人の要望を傾聴し、馴染める雰囲気を作り安心感と信頼関係を持つ様になっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談者の方が安心して話せるよう傾聴、理解し、適切な情報収集と提供に心がけ信頼を頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の現在置かれている状況を聴き取り、直面している困りごとを把握し、適切な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主訴として困りごとを聞く際に本当は自分はどうありたいのか、ニーズの共有、自己決定が出来るように援を心がけています。特技など人生の先輩として意見を聴くなど支え合う関係を維持しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、面会・外出が出来るよう感染症対策を考慮しつつ、協力体制を取っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの他入居者・職員等との触れ合いや自室やソファなどの馴染みの居場所があり、親族や知人との関係が途切れない様に努めています。	電話でのやりとりが中心。iPadやスマホで動画を送ったり、玄関や駐車場で面会してもらっている。預り金が少なくなると家族が持参してくれるので、面会の機会にもなる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビング、食堂をメインにテイ-タイム、レク、ラジオ体操など参加交流が持てるように支援をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退寮にあたり、行き先資料を集め、家族様と共に探して次に繋げています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護保険の立案時に本人の意見を積極的に取り入れ、できるだけ本人の気持ちを傾聴し、本人の意志に沿い作成、本院家族に説明しています。	日頃のやり取りの中で思いを汲み取る。利用者は家族との面会ができない事も、テレビを見ながら、新型コロナウイルス感染症の為と分かっている様子。毎朝、ラジオ体操を全員で行い、その流れでモップかけをしてくれる方がいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味や楽しみ、価値観など傾聴し、把握に努め今まで頑張ってきたことに共感し、今までの生活、出来る事の継続への支援をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お聞きし、職員同士の随時の申し送りノートやバイタルチェックノート等の活用や往診時に職員が付き添いし情報の把握、収集、報告に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を話し合い、情報集、職員間で共有作成しています。	毎月の職員会議で3ヶ月毎にモニタリングを行う。ケアマネが職員からの情報を得て、アセスメント、ケアプランに反映させる。家族の面会時に合わせて担当者会議を行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理者、職員間で日々のケアや問題点等その都度話し合い、申し送り、連携を取り実践しています。		

茨城県 グループホームにれの木桃花寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族・本人の意向やニーズに合わせて通院支援や面会の依頼、話し合えるような支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族・ボランティア、友人、地域の方々との交流を感染症対策を踏まえ継続支援し、安全で笑顔のある生活への支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院の継続や寮の協力病院の県西在宅クリニックの往診、さいとう歯科、総和中央病院、落合薬局の薬届けなど選択し希望に沿った支援をしています。	日頃の健康管理から看取りまで、関係機関と連携上、支援している。コロナ禍の対応として、診察は玄関のソファで行う。診療経過記録あり。家族には定期的に報告し、薬の変更などがある時は、その都度連絡する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや観察、気付き等県西在宅クリニック医師や看護師などへの連絡や家族や職員間での随時の報告・連絡をとり支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要に応じて医師・看護師の紹介状など家族様と連絡を取り合い、情報の提をにしています。退院時は看護申し送り等を頂き本人の容態の把握、対応支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、重度化に向けては契約時から本人・家族の意向を確認し、医師・家族・本人とその時・その都度意向の確認をしての支援を心がけています。	主治医から看取り期に入ったと話があったタイミングで、ターミナルに向けての話し合いを行う。主治医が家族に説明。家族も泊まりながら看取りケアに協力してくれる。職員の看取りに対する不安はない。お線香をあげたり、手を合わせてお別れをする利用者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに乗っ取り対応している。地域の消防本部の講習を受けて、対応への支援をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	古河市と連絡を取り早めに状況判断し対応をマニュアルに従い行って行きたい。併設の蒼天の郷と訓練を行っているが、地域住民の協力依頼をお願いしている。	自衛の消防団あり。まだ実際の活動はないが、地域住民への協力依頼は継続中。国の補助で発電機を設置し、地域の避難場所としての役割を持つ。年2回、消防署指導の訓練と自主訓練を行い、夜間の想定もされている。備蓄品は近隣住民の分も合わせて確保し、緊急持ち出し用品も準備している。水害の心配はない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーには十分に配慮し対応支援をしています。個人情報の取り扱い、写真の掲載等同意書を頂いています。	言葉遣いには細心の配慮をしている。ふさわしくない言葉に気づいた時は、その都度注意し、定例会議で再度話し合う。情報開示に関する同意書を取り交わし、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志で決められるように傾聴し、相談に乗り支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向・希望に配慮して自分で選べるように傾聴し、相談に乗り支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や身だしなみなど出来る事は行って頂けるように声かけ支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片づけなど状況に応じて手伝って貰い出来るは範囲で参加を促してします。職員も一緒に食事をすることで明るい雰囲気の中で食事が摂れるよう配慮しています。	前もって献立を決めるのではなく、一日のバランスが取れるように調整しながら食事を作る。主に管理者が1週間分の買い物するが、利用者の要望に応じて社長が購入する事もある。季節の物にこだわり、イベントに合わせたメニューやおやつ作りも楽しむ。この時期、干し柿作りもした。	

茨城県 グループホームにれの木桃花寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分等個人別に記録し、把握に努め、医師、看護師、家族と連絡、指導を頂き支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力病院のさいとう歯科医師の指導を受け、毎日の口腔ケアや衛生、食事の前に嚥下障害予防の為に発声練習など声かけ支援を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンの把握に努め、トイレの声かけや誘導介助を行い、トイレでの排泄介助や出来る場所は見守り、プライドを傷つけないような支援を心がけています。	一人ひとりのタイミングに合わせて声掛け誘導をする。利用期間が長い方ばかりなので、それぞれのパターンを把握している。パット交換についても、経済的負担に配慮しながら、適切なタイミングで行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理の工夫や医師・看護師と連携し、排便パターンの把握に努め、食物繊維の多い食事の提供など個々に応じて支援をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の容態や希望を聞きながら個々に合わせた支援をしています。	基本、一日おきの午後入浴支援であるが、必要に応じて随時入浴できる。季節に合わせ風習のゆず湯、しょうぶ湯を提供して、ゆっくりした気分で入浴してもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの物を部屋に置き、心地よい空間や安眠できるように話し相手、相談にのり、安心して休む事が出来るような支援を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の管理指導のもと、薬局の薬届け、説明、個々の服薬後の様子、容態など報告、相談し連携を図り支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分達で食べたいものを作ったり、今までの趣味など活かし、出来る事は手伝いあえる環境、持っている力を発揮できるような支援を心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は感染症対策もあり地域の祭りや職員と一緒に買い物や外出する機会が減りました。今後は散歩や外出など感染症対策を考慮し支援をしたい。	散歩や屋外のテーブルでのランチ、お茶を楽しむなど、外出に代わる楽しみを工夫している。小学生の通学路になっているので、登下校を眺めながら、利用者同士でお喋りしている。サクランボ、桃、ブルーベリーの実がなっている所を子供たちに見せたいと思っている様だ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に合わせて金銭管理の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話があった時は家族からの伝言を伝え、本人の希望時随時にできるよう支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖炉の暖かさのある生活空間や四季を五感で感じられるような花や緑に囲まれ居心地良く過ごせるよう支援を心がけています。	動線を考慮し、あまりものを置かず、車いすの人も自由に動けるようにしている。暖炉の前にはソファがあり、利用者同士の談話の場所となっている。柔らかな暖かさが落ち着いた雰囲気を醸し出していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で集えるダイニング、暖かく居心地の良い暖炉前のソファ、一人で居たいときの自分の居室など思い思いの場所にゆったりと過ごせる場所の工夫をしています。		

茨城県 グループホームにれの木桃花寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を部屋に置き、心地よい空間や安眠できるよう居心地の良い居場所の工夫、支援を心がけています。	居室には洗面所とトイレが設置され、使い慣れた家具と思われる品々が持ち込まれ、趣味のぬいぐるみや手作りの作品が飾られたり、思い思いのレイアウトがされている。ご主人の位牌や仏壇を置き、手を合わせている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	解りやすい部屋の配慮や自発的にリハなど出来るように手すりやスロープ、階段など利用しています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームにれの木 桃花寮

目標達成計画

作成日: 2021年2月8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	近年全国で天災(火災が発生やコロナウイルス感染クラスターが発生している。 利用者様のグループホームでの生活の安全の確保の 必要性がある。	利用者様・家族様に安心していただけるよう 利用者様の生活環境を作って行く	地域防災組織と連携を図り、場面を想定し 避難訓練を行う。 職員会議で話し合いをする。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。